

小山町長メッセージ	02
● 富士のあるまち	
特集 富士山～世界遺産～	04
● 活力あふれるまち	
3つの未来が生み出す新しいまちづくり	06
賑わいのあるまちづくり	10
豊かな自然環境を生かした新しい農林業の振興	12
豊かな暮らしを実現する新たな住宅地	13
● 健康で笑顔あふれるまち	
子どもたちが元気に育つまち	14
地域共生社会の実現	18
健康づくり	20
● 文化の薫るまち	
生きる力を育む	22
文化遺産の継承	24
東京2020オリンピック・パラリンピック	26
● 安全・安心なまち	
災害に強いまちづくり	28
安全安心に暮らせるまち	30
便利で快適な公共交通	31
住みよい住環境の整備	32
地域コミュニティ活動の活性化	33
● 富士山と共に生きるまち	
持続可能な社会を目指して	34
● 議決機関	
議会	37
● 特集 金太郎伝説	38
● 特集 110年年表	40
● 特集 まちデータ	44
● 歴代町長	48
● 町章、町の木、鳥、花	49



小山町制110周年に寄せて

小山町が大正元年(1912年)8月1日に町制を施行して以来、記念すべき110周年という節目を町民のみなさまと共に迎えることができましたことは、大変喜ばしく感無量の思いであります。

顧みますと、明治22年、東海道本線の駅として、六合村に「小山駅」が開業され、明治29年には富士紡績が操業を開始し、小山町は富士紡績と共に繁栄してまいりました。そして、大正元年8月1日の町制施行後、昭和30年に足柄村、翌31年に北郷村、須走村と合併し、現在の小山町が誕生いたしました。

大正、昭和、平成、令和という長い歴史の中で、度重なる自然災害など、幾多の困難に直面しながらも、克服し、町勢を発展させてこられたのは、多くの先人が培われてきた英知とたゆみない努力の賜物であると認識しており、心から敬意を表する次第です。

近年、社会情勢が大きく転換する時代にあり、柔軟な対応や、迅速な改革などが町政に求められている中、町政を進める上の指針となる最も重要な計画“第5次小山町総合計画”では、目指すべき将来像を、策定に関わった多くの町民のみなさまの意見を集約して「育てたい、暮らしたい、帰りたいまち 小山町」と定めました。

この将来像からは、町民のみなさまの新たなまちづくりへの想いや期待が感じられ、この想いはしっかりと継承し、そして未来へと繋げていかなければなりません。

このような町民のみなさまの想いと真摯に向き合い、町民・議会・行政が一体となって町民幸福度を向上させ、満足度の高い魅力あるまちづくりを推進していく必要があります。

これからも、“町民が主役”“町民が主体”的希望あふれるまち「住民幸福度日本一の町」の実現に向けて、町民のみなさまと共に歩んでいけるよう努めてまいります。

この町勢要覧は、町制施行110周年の記念誌として、小山町の過去・現在をお伝えし、未来へとつなげていくために作成いたしました。

この要覧が未来へ飛躍する小山町の魅力を御理解いただく一助になれば幸いです。

小山町長 池谷 晴一